

授業科目 評価学演習 (4 日常生活活動)

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
小林 量作		開講時期	後期（後半）	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	60（日常生活活動学15）
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】					
前期で学習した日常生活活動（ADL）の知識を基に、動作方法、介助方法、機器・用具の使い方を体験し習得する。また、呈示された事例についてADLプログラムを立案する。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞					
1. ADLの聴取法を習得している。					
2. 起居動作の指導方法を習得している。					
3. 歩行、階段昇降、歩行補助具の使い方を習得している。					
4. 移乗動作介助法を習得している。					
5. 車いす操作法、介助法を習得している。					
回数	授業計画又は学習の主題			SBO	
				番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	ADL聴取の実際 : 患者役とPT役で相互に聞き取りを行う。ポジショニング			1・2	小林
2	寝返り、起座、 : 寝返り、片肘支持、起座（片麻痺、脊髄損傷）、ギャッジベッド座位			2	小林
3	臥位移動、床上移動 : 臥位移動（左右・頭足方向）、いざり、四這位など			2	小林
4	起立、歩行 : 起立（椅子から、床から）、立位保持、傾斜台立位			3	小林
5	杖歩行、階段昇降 : 杖歩行、歩行様式、階段昇降様式）（1本杖、松葉杖など）			3	小林
6	移乗動作 : 移乗動作の介助			4	小林
7	車いす操作・介助 : 車いす操作、車いす介助、車いすリフト			5	小林
【使用図書】					
	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞	
教科書	日常生活活動学・生活環境学(第2版) 鶴見隆正編 医学書院 2005				
参考書	日常生活活動（動作）一評価と訓練の実際一 土田弘吉・他編 医歯薬出版 1992年				
	日常生活活動（ADL） 橋本 隆・他編 神隆文庫 1998年				
その他の資料	授業毎に資料配付				
【評価方法】			【履修上の留意点】		
実技試験、期末試験（筆記）			毎回、実技できる服装で出席すること。		
その他					